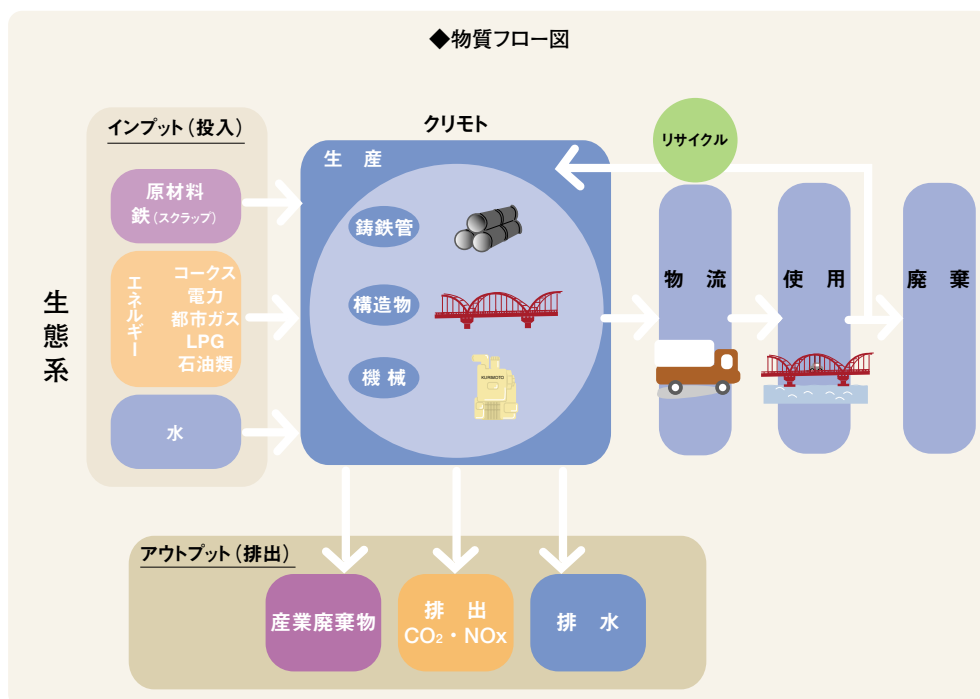


# 持続可能 (サステイナブル)な 企業活動 に向けて

## 生態系とのつながり

この図は当社での製品製造と物流、利用段階における物質フローのイメージです。当社で使用するエネルギー、水、原材料などはもともと生態系・地球環境に属しており、排出・廃棄により再び生態系に放出されます。当社の活動のすべてが生態系という大きなシステムに支えられていることを常に意識し、生態系・地球環境への負荷をできるかぎり減らす努力を行っています。例えば、大気汚染物質NOx・SOx除去装置、排水処理装置の設置や産業廃棄物の削減などです。



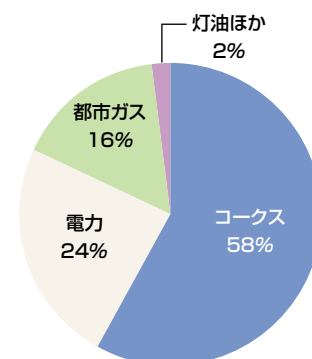
## クリモトの持続可能な企業活動に向けての大きな課題

当社が行っている事業内容と、その企業活動にともなって発生する環境負荷、持続可能性(サステナビリティ)について説明します。

当社は、上下水道・農業用水・ガスの配管に用いられる鑄鉄管・バルブ類、橋梁・水門などの構造物、金属加工用機械など、人々の生活を支える鉄製品を生産しています。これらの製品の多くは鑄造という方法で製造します。鑄造とは金属を高温で溶かして鑄型に流し込み、冷却・固化することで形を作る金属溶解技術です。

鑄造は、溶解炉で原材料である鉄(銑鉄、鋼屑)を溶かします。その際、燃料として、また鉄に炭素を加える“加炭材”としてコークスが必要です。コークスとは石炭を高熱で蒸し焼きにした固体です。当然、CO<sub>2</sub>の発生源となります。そのため、鑄鉄製品の製造を主な業務としている当社全体でのCO<sub>2</sub>発生源は、他の発生源(電気、都市ガス)と比べてコークスが58%もの大きな比率を占めることになります(右図)。このことから、地球温暖化対策として、コークスに由来するCO<sub>2</sub>をいかにして削減するかがポイントになってきます。この点が鑄鉄製品の製造における特徴的な環境問題と認識しています。

また、鉄という素材はもっとも一般的で大量に利用されている金属です。サステナビリティという観点では鉄の持つリサイクル性の高さが注目されます。製品の生産過程で出てくるスラグ(鉍滓)などの再利用はもちろん、いったん製品として使用された鑄鉄管や橋梁などの構造物の再利用も進めていくことが求められています。



◆栗本鐵工所のCO<sub>2</sub>排出源と割合

## 環境活動年表

世界／日本



28年前、1972年8月1日付け読売新聞に栗本鐵工所加賀屋工場「大阪港にセメント廃液流す」という見出しの記事が掲載されました。内容は「加賀屋工場からセメント混じりの強アルカリ性廃液を大阪港に流しており、大阪海上保安監部の取り調べを受けた」というものです。当社はこの事実を厳粛に受け止め、二度とこのようなことを起こさないために直ちに本社環境管理部を設置し、全社員への教育も徹底しました。この事実が当社における環境問題対策の源流ともいえるものです。この記事の切り抜きは現在でも毎年新入社員研修に用いており、全社員が「二度目は許されない」という強い決意であります。

企業理念にも「水と大気と生命(いのち)の惑星、地球を大切に」とあるように、当社は環境問題に対して真正面から取り組んでおります。